

まつど未来づくり会議 会議録

分科会名：福祉分科会

開催日時：平成21年8月7日（金）16時10分～19時

開催場所：松戸市議会棟 3階 特別委員会室

出席委員：荒 久美子、海老原 寛子、鎌田 啓作、古宮 保子、峪 二葉、
百田 清美、文入 加代子、細田 香苗、三木 京子、石井 久雄、
林 総太郎（敬称略）

事務局：伊東 朱美（政策調整課）

会議内容

<分科会を始めるにあたっての思い>

- ・ 両親の住む松戸でこれから子育てをしたいと思っている。
- ・ 高齢者の福祉制度が介護保険だけでなくいろいろな形の取り組みに広がってほしい。
- ・ 松戸がさらに子育てしやすい街になってほしい。
- ・ 長年、松戸の福祉に関わってきた。なんとか松戸をいい街にしたい。

<分科会長・副分科会長の互選>

分科会長：海老原 寛子委員

副分科会長：鎌田 啓作委員

<今後のスケジュール>

第2回：平成21年8月28日（金）9時～12時

第3回：平成21年9月25日（金）9時～12時

第4回：平成21年10月16日（金）9時～12時

<テーマについての思い・課題意識の共有>

各委員が、それぞれの思いや課題意識をポストイットに記入し、別紙のとおり、表にまとめた。その表に基づき各自、発表を行い、グループで内容の共有を行った。

【福祉に関する意見】

◎ 健康づくりに関する課題

- ・ 運動面、食の面で健康へのアプローチを市民へ周知を図る

- ・ 子どもへの安全の確保をしたい（事故、犯罪、ネット、食）
- ・ 食の安全（高齢者、子ども）
- ・ 高齢者、障害者、子育て世代、誰もが外出しやすい”まち”、外出したくなるまちにする
- ・ 女性や若年者の経済的自立
- ・ 日常生活習慣の振り返り協働をするための能力をいつでも発揮することができるシステム作り

◎ 障害者・高齢者など要支援者に関する課題

- ・ どう老いて、どう死ぬかのモデルが崩壊
- ・ 住み慣れた家、地域で高齢になっても住み続けるサポート
 - ・ 支えあいながら誰もがいきいきと暮らせると良いと思う
- ・ 加齢による障害も含めて自立した暮らしをするため求められた支援に応えるボランティアの働きをまとめる
- ・ ひとりひとりの悩みや、不安を聴く場、人は必要（困ったに寄り添う）
- ・ 誰かの”困った”を何らかのサービスにつなげたい（エンパワー前提）

◎ 次世代支援に関する課題

- ・ 子育て世代が住み続けられる松戸にしたい（転出を防ぐ、良さのPR）
- ・ 親と子が同居、近居してお互い、豊かに暮らせる松戸
- ・ 世代をこえた人たちが何気なく集える場づくり
- ・ 住み分けられている遊びの場、居場所
- ・ 子ども関連のところしか行けない、行かない子育て中のママ
- ・ 幼児虐待の解消に向けてのネットワークづくり
- ・ 子育て情報のはんらんの中で見失う自分らしい子育て
- ・ 自立できない人への対応
- ・ 教育の成果は50年先に出ることを思って子育てをサポートする

◎ 市立病院に関する課題

- ・ 松戸市が求める市立病院の役割
- ・ 地域社会が求める市立病院の役割
- ・ 市内の辺地からの市立病院へのマイクロバスの送迎などの確保
- ・ なくてはならない市立病院の赤字を市民のテーマとしてとらえていく
- ・ 市民が求める市立病院
- ・ 時代が求める市立病院
- ・ 救命救急に応える病院でありたい

- ・松戸市の「力」で支える市立病院の役割
- ・市立病院が東葛地域の基幹病院としての役割

<本日の感想>

- ・福祉で長い間、実績のある方の話しは、説得力があった。
- ・福祉は、ゆりかごから墓場まで人の一生に関わる分野だと改めて認識することができた。
- ・活発な議論ができたので、今後、話し合いをするのが楽しみだ。

以上